

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



学校教育目標

基本目標 心豊かに たくましく 学び深める 児童を育てる

スローガン やさしさいっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい の あまぬまっ子

昨年度に引き続き、今年度もこのスローガンを掲げて天沼小学校の教育を進めて参ります。新型コロナウイルスという目に見えない不安と直面している中、久しぶりに天沼小学校の校庭に子ども達の笑顔が戻ってきました。きらきらとした瞳をこちらに向けて、話しをしっかりと聞こうとする姿を見て、自粛自粛で少し塞いでいた気持ちが、いっぺんに明るくなりました。教師という職業柄なのでしょう。話しを聞いてもらえるということが、こんなに嬉しいことなのだ改めて感じました。4月7日の始業式では、次のように語りました。スローガンにあるひとつめのいっぱい、やさしさについてです。



前の校長先生、丹羽先生から、天沼小学校の先生たちにはあなたたちが、こんな子どもになって欲しいなという願いがあると聞きました。それは、「やさしさいっぱい 元気いっぱい 夢いっぱいの あまぬまっ子」です。その中の一つ目のいっぱい、やさしさについて、私が考えていることをお話しします。

小林さんという方から聞いたお話です。小林さんには、けいこさんという娘さんがいました。生まれた時から、筋肉の力が弱く、じょうずに歩くことができませんでした。1年生になったときも、お友達と同じことができるかしらととても心配したそうです。かけっこをすると、いつもビリ。学校では何をやっても、友だちに勝てません。5年生になるまで、運動会ではいつもビリでした。

6年生の時、クラスの友だちが足の怪我をしました。小林さんの奥さん、けいこさんのお母さんですね。お母さんは、お友達には悪いけど、今年の運動会で、けいこはビリにならないかもしれないと、少しだけ喜んだそうです。けいこさんは生まれて初

めて、ビリにならないかけっこができるでしょうか。運動会の応援に行けなかった小林さんは、運動会から帰ってきた奥さんの、嬉しそうな笑顔を見て、「けいこは、ビリじゃなかったんだな」と思いました。奥さんから話を聞いてみると、けいこさんは今年もビリだったそうです。ビリなのに、どうしてそんなに嬉しいのか不思議に思いました。

かけっこが始まると、けいこさんは、足を怪我した友だちのことを何度も振り返りながら走ったそうです。自分のこと以上に、友だちが無事にゴールできるか心配だったのででしょう。

友だちは足をかばう余り、転んでしまいました。すると、けいこさんは走るのをやめて、友だち所へ駆け寄り、手を引き、起き上がらせ、二人で一緒に走り出したそうです。二人の姿を見ていた周りの生徒も、お父さんお母さんも、先生達も大きな声で応援をしたそうです。そして、ゴールまで来ると、けいこさんは、友だちの後ろに回り、背中をポンと押して、その子を先にゴールさせたそうです。ですから、けいこさんはやっぱりビリだった。というお話です。

すてきなやさしさですね。自分のことよりも、友だちのことを大切にする、やさしいけいこさんですね。みなさんに、けいこさんのまねをしてくださいということではありません。かけこの一番を目指して全力を出すことは大切なことです。自分の力を全部出し切って、何かをやりとげることはとても大切なことです。やさしさには、いろいろな形があっていいんです。みなさんは、今年、どんなやさしさを見せてくれるでしょうか。どんなやさしさを見つけてくれるでしょうか。いろいろなやさしさを見せたり、見つけたりして、やさしさいっぱい为天沼小学校にしていきましょう。

臨時休校となります

4月13日(月)から5月10日(日)までの間、臨時休校となります。学校がやっと再開し、元気な子ども達の声が響く校舎に、明るい兆しを感じた矢先のことで、気持ちが塞ぎ込んでしまうというのが正直な思いです。桐生市新型コロナウイルス感染症対策本部による熟慮を経ての決定ですので、ご理解いただき、ご協力よろしく願いいたします。

一日も早く、事態が収束し、正常な生活を取り戻せるよう祈るばかりです。保護者の皆様も、感染対策には用心には用心を重ね、ご健康でお過ごしください。

臨時休校期間中、数回の登校日を設定します。詳細は、別途、通知やお便りでお知らせします。子どもの健康状態、学習状況の確認をすると同時に、心の面のケアもいたします。新しく同じ学級になった友だちや、担任と顔を合わせたり、楽しく過ごしたりして、人間関係を築けるよう取り組みます。何よりも、子ども達が健やかに成長できることを第一に考えて参りたいと思っております。

不安の種は尽きませんが、力を合わせてこの難局を乗り越えましょう。